



第3893図

きよすみひめわらび

一名しらがしだ

Dryopteris Maximowicziana C. Chr.
 (= *Ctenitis Maximowicziana Ching*)
 関東南部から西の暖地の稍々陽の指す林内で湿度の高い地に好んで群生する多年生の羊歯草本。根茎は直立し、数葉を斜立上部平開し、高さ40-70cm、葉面は鮮黄緑色、中軸と葉柄上に開出した多数の白色の大形鱗片と相俟って美しい。乾くと葉柄は硬くなり、黄褐色に化し、鱗片もまた褐色となる。葉面は軟かい革質、卵状長楕円形、表裏同色、2回羽状複葉、羽片は開出してつき10-15対、広披針形乃至線状披針形、小羽片は羽状深裂、裂片は線状広楕円形でその基部に近く1-3対の小形の囊堆がつく。苞膜は円腎形、和名は千葉県清澄山に発見されしにより、白髪シダは鱗片白きに因る。

においしだ

Dryopteris fragrans Schott
 (= *Aspidium fragrans Swartz*)

北半球の寒地に広く分布する羊歯草本で、八ヶ岳及北海道の高山に産する。根茎は旧葉柄で太く膨らみ、岩隙に生じ、葉を多数叢生する。葉は長さ10-35cmで全体に分泌物があつて匂う。葉柄は葉面より遙かに短かく、黄褐色の薄膜質の鱗片が密生する。葉面は狭披針形或は倒披針形とも成るが2回羽状複葉で羽片は各側20-30、革質で淡緑色、羽片は線状長楕円形、小羽片も同形、全縁から羽状深裂まであり、先端は鈍形、小羽片軸から分岐した側脈の下部の分枝上に円腎形の苞膜を着け、それが互に重り合いまた縁がはみ出す程大きく且つ押し合う。

なちくじやく

Dryopteris decipiens O. Kuntze

支那中部から九州をへて紀伊半島にまで分布する常緑羊歯草本で、根茎から数葉が斜めにおいしだ状に開出、高さ30cm位、常緑林下の陰湿地を好む。根茎は直立し、小型、葉柄は瘠せて堅く、黄褐色で、狭線形濃褐色の鱗片を多数に生ずる。葉面は長楕円状披針形、単羽状で蒼緑色革質、羽片は各側2-15、広線状披針形で漸尖頭、長さ8cm内外、基部は急に心脚となり短柄で羽軸につづく。縁辺は羽状に浅裂、時に下部では深裂し、裂片は円頭。囊堆は、羽軸の両側にそれに稍々近く一列をなす。和名は那智孔雀でクジャクシダに似且つ紀伊那智山に発見されたのに因る。



第3894図



1302

さいこくべにしだ

Dryopteris Championi Ching
 (= *D. pseudoerythrosora Kodama*)

関西以西の暖地の林縁路傍に多い常緑羊歯草本で、草状はベニシダ及びマルバベニシダに似ている。彼等2種にあっては囊堆が小羽片の中脈と縁辺との中間よりも明瞭に中脈に近づいて並んでいるのに対して逆に縁辺の方に近く排列している。また葉柄の鱗片はその基部で膨らんだ形に葉柄につくため、他2種で圧された様に附着しているのに比べて盛り上がり見える差異がある。しかしひベニシダを中心とした軽微な種といえよう。小羽片には鋸歯がある。支那の中部以南にも分布する。和名は西国紅シダで、日本西部に産するに因る。



第3896図

うすひめわらび

Acystopteris japonica Nakai
 (= *Cystopteris japonica Luerssen*)

日本特産の羊歯で関東以西の山地の陰湿の林下に生ずる多年生羊歯草本。葉は冬に枯れる。根茎は細い紐状で匍匐し、稍々間隔をおいて葉をつける。葉は立ち、上部斜めに開き高さ40-80cm、葉柄は細く紫黒色で光沢があり、鮮緑色で細かに切れた葉面と共に鐵麗の感がある。葉柄には巾広の淡褐色のうすい鱗片が散生、葉面は卵状3角形で2回羽状複葉、まだ薄い膜様革質、鮮緑色、羽片は披針状楕円形で漸尖頭、小羽片は更に羽状深裂、裂片は円頭で鋸歯のある広線形。囊堆は各裂片1-9個つき、点状、不完全な小形の苞膜あり。和名は概形がヒメワラビに似て質うすきに因る。



第3897図

すじひとつば

Cheiroleuria bicuspis Presl
 var. *integrifolia* Eaton

東海道以西以南の暖地、常緑樹林下の陰湿地に群生する多年生の常緑羊歯。根茎は地上に横たわり硬質で、葉柄の下部と共に金褐色の軟かい毛を密生する。葉は並んで立ち、高さ30-60cm、葉柄は針金様で栗褐色、光沢があるが鱗毛がなく強靭、表面は光沢のない乾いた革質で多少もろく、卵状披針形乃至広披針形、ほぼ3脈が縦走し、細脈は網目状に連なり軽く隆起し、全体暗灰緑色、実葉は裸葉に少数混じ、広線形で、裏面に暗褐色の子嚢を一面につける。絲状体を混す。和名は筋一つ葉で、ヒトツバに似て、脈がすじばつて隆起するによる。



1303